

天路山城跡発掘調査現地説明会資料

資料作成：(公財)和歌山県文化財センター

◆はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、日高町から比井漁港漁村再生交付金事業に伴い天路山城跡の発掘調査業務の委託を受け、令和元年10月28日～11月29日にかけて発掘調査を実施しました。調査の対象面積は360.0㎡です。

◆天路山城跡とは

天路山城跡は、『和歌山県埋蔵文化財包蔵地図(和歌山県教育委員会2014)』によると空堀や土塁が残る中世の山城とされており、別名「比井城」とも呼ばれています。

この山城は戦国時代、紀中地域を支配した湯河氏によって築城されたと言われており、比井浦の沿革をまとめた「古今年代記」によると亀山城主湯河直春の従弟である湯河弘春が城主であったと伝えられています。これまで縄張り図が何度か作成されていますが、発掘調査は行われていませんでした。

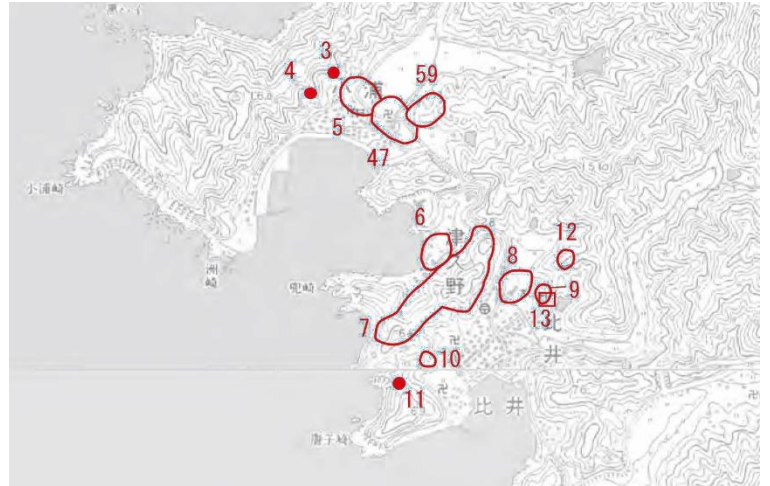


図1 天路山城跡の位置(7が天路山城跡)

◆発掘調査の成果

発掘調査は、天路山城跡の南東部で屋敷があったと推定される「土居」と呼称される場所から、天路山城の中心である主郭に至るまでの中間地点にある平坦部を中心に行いました。過去に作成された縄張り図で曲輪と指摘されていた場所です。

調査の結果、この平坦部は本来の尾根状の岩盤地形を人工的に削り出し、岩盤が落ち込む東西の斜面(特に西側の斜面)に土を厚く盛って作られています。また、現在調査区の南北に延びる境界土塁は、岩盤を削り出した上に土を盛って作られていることも確認しました。

平坦部の盛土の時期については、盛土自体からは遺物がなく判然としません。その上の整地層から出土した遺物により、近世以前の可能性が考えられます。

調査では近世の茶碗などの陶磁器を中心に瓦、硯が見つかっています。中には中世に使用された瓦器椀の破片も確認できました。

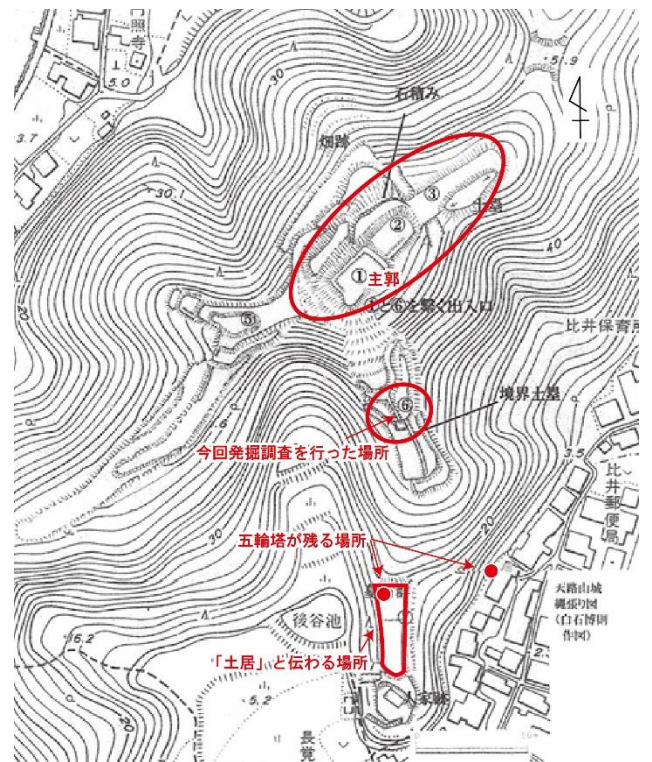


図2 天路山城跡縄張り図(白石博則氏作)「湯河氏関連城郭と天路山城」『日高町歴史講座 湯河氏の城—その歴史と魅力—』2019掲載資料に加筆

◆まとめ

発掘調査の成果から、調査区は盛土と後世の整地によって現在の平坦面が形成されていますが、本来は尾根状の岩盤を基本とする地形であり、現在この平坦面を南北に通る境界土塁は、土塁盛土の下部に後世の整地で削平されなかった岩盤が残っていることが明らかになりました。そして、この土塁は土居と呼ばれている部分まで、形状は一定ではありませんが連続している可能性が高く、土居から今回の調査区、更に山頂にある主郭へと至る登城ルート上に位置していることも踏まえると、天路山城が機能していた時期には、土塁部分が主郭への通路として使用されていた可能性が推測されます。そのため整地が行われた近世以降でも、その通路が踏襲され、現在も境界土塁として機能していると考えられます。

これまで今回の調査地周辺が曲輪であることが指摘されていましたが、今回の調査成果、縄張り図や周辺の地形の再検討から、調査地は登城ルート上に位置する曲輪であり、天路山城が機能していた時期には、平時は山麓から主郭までの通路や物資輸送の中継地点として、戦時においては見張り場、防御に使用された曲輪であったと考えられます。

また、天路山城跡の東に位置する比井経塚（保元三（1158）年）や比井若一王子神社、土居周辺に複数確認される組合式五輪塔と五輪塔板碑（合わせて現在9基を確認）の存在から、中世から近世にかけて比井地区では天路山城周辺を中心とした活発な人々の活動があったことが伺えます。



写真1 平坦部の岩盤落ち込みと盛土の様子（北から）



写真2 調査区全景の様子（北から）

図3 調査区平面略図（調査途中段階）

【補足資料】

●用語

縄張り図（なわばりず）…現状の地形等から曲輪や防御施設の配置を読みとり、城の構造をわかりやすく示した
図面

曲輪（くるわ）…城の内外を堀や石垣、土塁で区画した区域のこと

土塁（どるい）…敵の侵入を防ぐため、土を盛って作った堤防状の壁。「土居」と呼ばれることも

土居（どい）…室町時代～戦国時代にみられる土塁（盛土）。転じて、土塁の内側にあった屋敷等を意味すること
もある

五輪塔（ごりんとう）…中世以降に登場する石製の供養塔や墓塔。下から方形＝地輪（ちりん）、円形＝水輪（す
いりん）、三角形（または笠形、屋根形）＝火輪（かりん）、半月形＝風輪（ふうりん）、
宝珠形または団形＝空輪（くうりん）によって構成され、各石には梵字などが刻まれて
いる。複数の石材を組み合わせた「組合式五輪塔」や一つの石材から加工する「一石五
輪塔」、板状石材に形を彫り込んだ「五輪塔板碑」など種類がある

●土居周辺に残る五輪塔



昭和 52 年撮影

(写真提供：いずれも水島大二氏による)



平成 30 年撮影